



編集／東濃厚生病院広報委員会

理念

歩みいる者に
やすらぎを
去り行く人に
幸せを

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。

行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場にたった質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。



院長就任挨拶

野坂博行



平成二十三年五月一日より、平石孝院長の後任として東濃厚生病院の院長職に就任することになりました。

昭和五十四年四月、当時の昭和病院に内科医として勤務。

途中一年九ヵ月間の大学での研修生活を経て、再び、昭和五十九年四月より当院内科呼吸器の医師として、約三十年にわたり診療・検診活動など臨床医療中心に従事し、東濃厚生病院の一員として地域医療の発展を見つめてまいりました。今後もこれまで培った専門性を生かしながら、病院全体の運営に取り組み、地域医療における東濃厚生病院のあり方や将来構想などを模索しつつ、微力ながら自然体にて職務を遂行していきたいと考えています。

近年医療の進歩にはめざましいものがあり、より高度な専門性が必要とされています。一方で複雑な病態を有する患者

さんでは、複数の診療科にまたがって診療や診断が行われることも少なくありません。このような状況の中で最も必要とされるのは「チーム医療」の実践です。医師、看護師、他の職種に働く職員全員が連携を密にし、一丸となって患者さんの診療にあたるのが大切だと考えます。

当院におきましても長期間にわたり、医師不足、看護師不足が続いていましたが、幸いにも平石前院長の尽力により解決の糸口がみえてきました。病院職員にとりまして働きやすい最適な職場環境の整備にも努めたいと思います。

今後も東濃地方の二次輪番制救急病院の急性期病院としての機能し、臨床研修病院としての役割を果たしつつ、地域の皆様に信頼される病院をめざしたいと思います。改めて皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。





退任挨拶

名誉院長

平 石 孝

この度、平成二十三年四月三十日をもって退職することになりました。

昭和六十一年に赴任して二十五年、院長に就任して五年、病欠もなく無事に勤めを終えることができましたのも皆様方のご指導、ご支援によるものと深く感謝しております。

当初、大学からは二年の赴任期間でよいと言われ、そのつもりでおりましたが、地元の暖かい風土や人柄、職員の熱心さに引かれて勤務しているうちに二十五年が経っていました。最後は院長職拝命など考えてもいなかった事も起こり、今さらながら驚いております。

院長在任中は病院を発展させようと足掻いても、医師不足は本院も例外ではなく、小児科、産婦人科医師が定年となつてからは嘱託勤務となつて、診療面での後退となり残念な結果となりました。しかし内科医師四名、五月からは更に一名、外科医師一名の増員となり、今年の四月からは待望の研修医

も二名加わって、医局員の平均年齢も若くなり院内の雰囲気もパワーアップしてきた感じがしております。ただ診療科によつては医師の数はまだまだ不十分で、ご迷惑をおかけしていることに対して誠に申し訳なく思っております。

看護師不足も毎年のことではありますが解消には至っておりませんが、医師招聘と共に更なる努力が求められます。

近隣の病院も同様の悩みを抱えています。医療界では東日本大震災復興支援のために予算は削減される事が予想され、以前にも増して厳しい状況が続くでしょう。東北地方の悲惨な状況を考えれば我々はまだまだ頑張っていけます。

在任中に達成された事といえば、第二十五回岐阜県病院協会医学会の主催、人間ドック・健診施設機能評価の認定、入院基本料7対1の取得、DPCの入院医療費の算定、X線写真のフィルムレス化、日本医療機能評価機構への認定獲得などがありました。これも関係各位のご理解と「和を似て貴しと為す」の精神で全職員が一丸となって頑張った努力の賜物であると考えております。

私は退職となりますが、本所のご配慮により常勤嘱託医として今しばらく微力ながら、整形外科の診療のお手伝いをさせて頂く予定でおります。皆様方には引き続きのご支援、ご厚誼を賜りますようお願い申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

新型血管撮影X線診断装置を導入しました

3月1日より汎用型アンギオ装置 (PHILIPS Allura Xper FD20+ Allura 3D-RA) が導入されました。この装置は最新の技術によりX線を画像に変換する部分に大型のフラットパネルディテクタを使用し高画質で広範囲の描出が可能となりました。

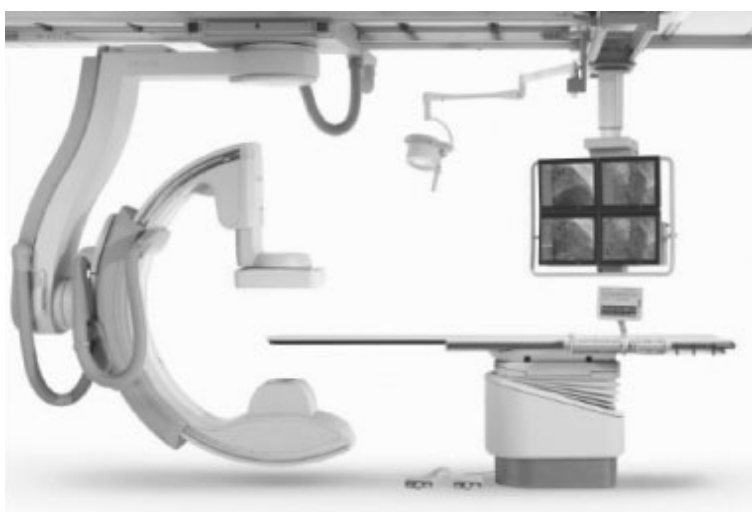
さらにこの大型のフラットパネルディテクタを高速回転 (XperCT) させ細部まで精緻な三次元画像 (3D) を作成し正確な診断治療が可能となりました。また、システム全体では被曝が低減され検査を受けられる患者さんに優しく設計されています。

この装置は最先端3D画像処理機能を駆使することで従来の血管検査ではわかりにくかった血管の疾患やがんなどの病変をより正確に診断し治療を行う装置です。

どのような検査をするの？

頭部・腹部・四肢の血管検査や血管内治療を行います。

カテーテルという柔らかく細い管を手首または太ももの付け根の動脈または静脈から血管内へ挿入し血管の状態を観察し狭くなった血管を拡張したり、がんや出血部位に対し薬物の注入や止血を行います。



最新鋭の胸部・胃部併用X線デジタルテレビ検診車を導入しました

当院では、検診内容の一層の充実や健康管理活動の効率化を図るため平成23年1月最新鋭の胃胸部併用デジタルテレビ検診車を導入しました。この検診車は、(財) 日本成人病予防会岐阜県支部が競輪の補助を受けて整備したものです。

導入した検診車の仕様は、東芝製の最新鋭胃部及び胸部X線デジタル撮影装置並びに富士フィルム製デジタルX線画像診断装置カルネオを搭載しております。デジタル画像処理を行うため被曝線量も最小限で、現像液及び定着液などを必要としません。廃液処理が不用のため、「地球環境にやさしい」システムになっています。

また、X線写真について従来との比較です。従来は間接写真 (100mmロールフィルム) に撮影しフィルム診断から、今回からデジタル撮影により、高精細モニターから拡大、濃度が容易な診断が可能となりました。なお、デジタルフィルムは、専用サーバーに電子保存されます。

今後は、この導入した検診車を活用し、東濃地区のJA組合員や地域住民の生活習慣病検診の積極的な実施に努め、健康管理に貢献できるよう最善の努力をします。



院内教室レポート

第4回腎臓病教室が

開催されました



透析看護認定看護師

高木 朋子

昨年十二月四日（土）健康管理センター2階にて、第4回腎臓病教室を開催し、二十名の方に御参加いただきました。この腎臓病教室は平成二十一年六月二十日を初回に、以後年2回の開催を目標に続けております。より多くの方に慢性腎臓病を理解していただけるよう、院内において腎臓病教室チームを発足し、腎臓内科医師・薬剤師・検査技師・栄養士・医療福祉相談員・看護師という他職種で力を合わせ、腎臓病教室を支えています。

慢性腎臓病の進行を抑えるためには、病気を十分に理解して病気に上手にお付き合いしていくことが大切です。それには食事療法とお薬が重要な役割を果たします。腎臓病教室では、「腎臓の働き・慢性腎臓病とは」「薬物療法」「検査データ」「医療福祉」「食事療法」について各担当者からじっくりとお話をさせていただきまします。また、参加者からの活発な御意見・御質問も多数お受けし、可能な限りお応えしています。様々な観点からの御質問には、私

たちスタッフも大変勉強になり、腎臓病教室をより充実したものにしていくための参考にさせていただいています。

当院の腎臓病教室では毎回、『低タンパク・減塩』がポイントの腎臓病食を昼食として御用意しております。「慢性腎臓病には食事療法が重要とは知っているけれど、なかなか上手にできない。」と話される方が多く、その不安を軽減できれば。という目的で初回から、一食五〇〇円で教室の際に皆さんに御試食いただいています。「減塩で低タンパクなのに、ポリウム満点で美味しい。」

と、毎回嬉しいお言葉をいただいています。少しでも、御自宅での食事療法の参考になればと考え、今後も継続していく予定です。

次回の第五回腎臓病教室開催は平成二十三年六月四日（土）を予定しています。スタッフ一同、心をこめて準備をしておりますので、現在治療中の方・興味のある方はぜひぜひご参加いただければと思います。



ヘルニア外来開設にあたって



手術室部長 安藤修久

当院外科ではこのたび平成二十三年四月より（毎週木曜日午前8：30～11：30、外科外来にて受付。担当：野村）ヘルニア外来を開設いたします。ヘルニアというと、下肢のしびれや痛みを主症状とする椎間板ヘルニアを思い浮かべる方も多いかと思いますがこれは整形外科の疾患です。当科で扱うヘルニアはソケイヘルニアといい、股の付け根や陰嚢に腸管その他が脱出して腫れる、いわゆる“脱腸”です。幼児期に発症するものは先天性ですが、加齢により、おなかの壁が弱ってしまうことが原因の成人型は、高齢化社会に伴い増加しております。デリケートな部位ですので、異常に気づいても受診をためらったり、あるいはどの科にかかれればいいのかわからない、といった声にぜひお応えしたいと存じます。ソケイヘルニアの具体的な治療法は各病院によって異なりますが、当科では再発や副作用の少ない“クーゲル法”を、いち早く、東濃地区で唯一導入し、既に多くの患者さんに喜ばれております。経験豊富な専門医が診療にあたりますので、安心して御来院ください。

●ヘルニア外来：二〇二二／四／八より開始。●

職場紹介

5階病棟 看護師 成瀬 徹哉

五階病棟では現在、看護師や看護補助員など三十一名の職員が働いており、主に消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌内科の患者さんが入院されています。

五階病棟の特徴としては、呼吸器・循環器疾患により、酸素吸入を行っている患者さんが多くみえるということがあります。酸素吸入で呼吸を補助し、中には人工呼吸器をつないだり、バイパップという呼吸を補助する機械を使っている方もみえます。動くときにくくなってしまうという患者様も、車椅子などで安全・安楽に移動できますので、安心して過ごしていただけます。

また、近年増加している糖尿病の患者さんも多く入院されます。糖尿病は、一度発症すると一生付き合っていかなければならない病気です。そんな糖尿病とはどのような病気なのか、どのように治療を進めていくのか、どう付き合っていけばよい病気なのか、といったことをしっかりと理解していただけるよう、入院生活のスケジュールを組んで説明させていただいています。

退院されていく患者さんに「また来てください」とはなかなか言えない場所ですが、「またここへ来たい」と思っていただけようスタッフ一同心がけています。



デイルームからは屋上庭園や瑞浪市街が一望できます。みんなでご飯を食べたり、午後の一時を過ごしたりと、患者さん方の憩いの場です。

スタッフステーションには24時間体制で職員が勤務しています。どんな用事でも、お気軽に尋ねてください。

フットケア外来

日本の糖尿病患者さんおよび糖尿病予備軍の数は増加の一途をたどり、十年前より約六十%増加しています。糖尿病は自覚症状がほとんど出ないことが多く、気付かないうちに合併症が進んでいきます。糖尿病合併症の一つに足病変があり、足の感覚が鈍くなる、または血流が悪くなる、足の傷、体の免疫低下などの要因により発症・進行します。その病態は足の指間や爪の水虫や、靴ずれ、タコ、ウオノメ、足の傷、足の組織が腐る状態など幅広いです。足病変が重症化し足の切断に至る場合もあり、患者さんの日常生活に大きく影響します。そのため、足病変の予防的ケア・早期発見・早期治療が大変重要となります。糖尿病治療の基本は食事療法・運動療法を中心とした生活習慣の改善ですが、運動するための足が元気でなければ運動が継続できません。当院では通院中の糖尿病患者さんを対象にフットケア外来を始めます。皮膚・排泄ケア認定看護師と糖尿病療養指導士が担当し、足の観察・ケアを行い、足病変が重症化しないようお手伝いをさせていただきますのでご利用、ご相談ください。

外来日：毎週火曜日（祝祭日を除く）

9時～16時 予約制

担当：内科部長 安藤 操
皮膚科部長 稲垣 克彦
皮膚・排泄ケア認定看護師 中嶋一二三
糖尿病療養指導士 林 麻理子
西東京糖尿病療養指導士 岩下 嘉子
*詳しくは内科受付へお尋ね下さい。

表紙の写真の説明

マカオにて撮影

ドン・ペドロ5世劇場（世界遺産）

中国で初めての西洋式劇場で、その名称は、ポルトガル国王ドン・ペドロ5世に由来します。設計はマカオ生まれのポルトガル人ペドロ・ジェルマノ・マルクスが担当、中国最初の西洋式劇場です。主要部分は1860年に建築され、正面は1873年に増築されました。

木漏れ日を受けてキラリと光る劇場が美しく感じ撮影しました。

編集者

糖尿病教室 年間予定

日程

講義担当者

四月二十日（水）安藤医師（内科）、栄養士
七月十三日（水）堀部医師（口腔外科）、検査技師、薬剤師
十月十九日（水）金田医師（眼科）、栄養士
一月十八日（水）看護師、理学療法士、栄養士
場所：講義室（健康管理センター2階）
時間：一四：〇〇～

（ご希望の方は三：三〇〇血糖値・体重測定・看護師による足の観察を行います。）